

## 核燃料サイクル政策に関する論点

for 核燃料サイクルのあり方を考える検討会（第 8 回） 原子力委員会  
山地憲治（東京大学） 030520

### 六ヶ所再処理の現実を直視すること

- プルトニウムの経済的価値はマイナス。（回収ウラン利用の見通しも不明確）
- 再処理は資源回収としては採算が合わない。（予定通り運転できないリスクもある）
- SF 対策として再処理の機能は中間貯蔵と同じ；中間貯蔵の方がはるかに経済的。
- ホット運転した場合の施設廃止コスト（おそらく 1 兆円以上；コストに計上されていない）。
- 電力会社が六ヶ所を中断できないのは上流に遡及して原子炉が止まることを恐れるため。
- 「核燃料サイクルの確立」という「建前」に電力会社も地元も振り回されている。

### 核燃料サイクルの意義をどう考えるか

- プルトニウム利用によって原子力は莫大な供給力を実現する。しかし唯一ではない。
- 短中期的にはウラン資源は十分。現在の軽水炉で原子力の意義は十分に確保されている。
- 長期的で総合的なエネルギー戦略の中で核燃料サイクルを位置付けるべき。
- 拙速な核燃料サイクル確立は原子力の推進に逆効果。

### 高レベル放射性廃棄物をどうするか

- 使用済み燃料直接処分も選択肢；ガラス固化体や TRU など再処理廃棄物処分と比較検討。
- 廃棄物処理としての再処理（ましてや群分離・消滅処理）の意義は疑問。

### 原子力委員会は何をすべきか

- 地元や電力会社の苦悩を理解できない原子力委員会は「裸の王様」。
- 核燃料サイクル確立（= 全量再処理）という「建前」を変更する。
- 再処理から中間貯蔵へ核燃料サイクル路線の転換。
- 中間貯蔵後のバックエンドは政府が責任を持つ体制の構築。
- 核燃料サイクルバックエンドの選択肢について本格的な政策評価を行って公表する。

### その他

- 英仏からの返還プルトニウムのプルサーマル利用は必要。
- 「もんじゅ」は冷静に費用便益分析をして中止の可能性を含めて早急に決断すべき。

以上